

山形議員（自民議連）

令和6年2月19日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）公立高校の入学者選抜制度について

昨年度から行われた新たな入試制度における課題についてどのように認識しているのか、また、昨年度の課題を踏まえ、今年度の入試に向けて、教育委員会及び学校現場においてどのような対応を行っているのか、併せて教育長に伺う。

（答）

この度の公立高等学校入学者選抜制度の改善は、本県が進める「学びの変革」や新学習指導要領の趣旨を踏まえた、各高等学校の教育目標の実現に向けた入学者選抜の質的改善を図る必要があることなどを踏まえ、「広島県の15歳の生徒にどのような力を身に付けさせたいか」という観点から実施したものでございます。

初年度となる令和5年度入学者選抜につきましては、おおむね円滑に終わることができたものと考えております。

一方で、課題といたしましては、

- ・ 自己表現の実施について、「評価が難しかった」との声が高等学校から上がっていたこと、
  - ・ 一次選抜の1日目が長時間となり、受検者及び高等学校の負担となったこと、
  - ・ 選抜の実施方法の見直しや調査書の簡素化等、この度の制度改善の趣旨が、中学校に理解されていない部分があったこと
- などがあったものと認識しております。

これらの課題に対応するため、令和6年度入学者選抜におきましては、自己表現の評価について、各高等学校で、実際に行われた自己表現の事例を基に、教職員同士で意見交換を行い、学校ごとの具体的な評価基準の精度を高めるなど、引き続き研修の充実に取り組んでいるところでございます。

次に、一次選抜の1日目の時程につきましては、自己表現カードの記入の時間を現行の30分間から15分間に短縮して実施することとし、それに伴い、より短時間で記入ができるよう、教育委員会において、自己表現カードの様式を改訂いたしました。

また、制度改善の趣旨につきましては、中学校の進路指導主事等を対象とした研修等において、教育委員会から改めて説明をするとともに、昨年11月発行の教育委員会の保護者向けの広報紙「くりっぷ」において制度改善の趣旨や内容について再度掲載するなど、丁寧な周知に努めているところでございます。

教育委員会といたしましては、令和6年度の入学者選抜が適正に実施できるよう、万全を期すととともに、引き続き、生徒や学校など、関係者にとって、よりよい公立高等学校入学者選抜となるよう努めてまいりたいと考えております。